

## 2006 年度 日本液晶学会第 1 回理事会議事録

日 時：2006 年 1 月 28 日（土）午後 1 時 00 分～5 時 30 分

会 場：東京工業大学イノベーションセンター 805 号室（田町）

出 席：竹添秀男，赤羽正志，青木良夫，氏家誠司，坂本謙二，高橋泰樹，竹内清文，伊達宗和，  
内藤裕義，西川通則，能勢敏明，平岡一幸，森武 洋，山本 潤，米谷 慎，渡辺良一

欠 席：赤木和夫

オブザーバー出席：沼田（事務局）

### 議 案

#### 1) 承認事項

##### 1-1 会員入退会の承認

- ・2005 年度 12～2006 年 1 月の入退会者数が会員委員会より報告され，承認された。

#### 2) 報告事項

##### 2-1 総務委員会（内藤理事，資料 06-01-1）

（行事予定の確認等）

- ・資料に基づき，冒頭で（1）前回理事会議事録・業務委託契約はすでにメール審議・および審議によって結審しているので詳細説明は省略すること，（2）協賛に関するルール（前例があるものは自動的に承認）の報告があり，その後，全体で年間活動予定の確認を行った。

（協賛国際会議のシーズマネー拠出について）

- ・竹添会長から，昨年第 5 回理事会でも概要説明が行われた第 11 回強誘電国際会議（2007 年，参加数 200～300 程度，シングルのオーラルセッション，学術振興会から 200 万援助）開催にあたり，新理事に向けてあらためて概要説明と規定範囲内の学会からの援助金支援についてご依頼があった。援助金に関しては寄付金ではなく，あくまでシーズマネー（貸付金，上限 100 万円）という形でしか拠出できないことを前提に理事会は承認した。

（液晶学会設立 10 周年記念企画：出版事業）

- ・継続審議事項となっている出版事業については，実験講座をまとめて単行本として出版，過去の会誌を CD-ROM にまとめる，などの意見が出ている。検討の結果，非売品とするか定価をつけて販売するものとするかは継続審議となったが，前者（実験講座）は編集委員会で企画をまとめ，まとめた企画をメーリングリストにのせる。後者（バックナンバー）は情報委員会で企画をまとめ，どちらにするかは 4 月理事会で結審することとなった。
- ・竹添会長から日本を代表する十数名の研究者による解説を単行本として英文で出版してはとの提案があった。竹添会長に出版費用等を調べていただくこととなった。

（液晶学会設立 10 周年記念企画：記念講演会）

- ・竹内研究会フォーラム担当理事より，今年度中に全 6 フォーラム共同講演会の試験的实施を検討している，本番は 2007 年とし，そのたたき台のつもりで開催を試みるものであるとの報告がなされた。
- ・竹添会長より，2007 年の討論会（液晶学会設立 10 周年記念）は設立総会が行われた東工大が望ましいとのことで，大岡山キャンパスを一応押さえた。第 11 回強誘電国際会議に招待した方を液晶学会討論会に招待することで，より記念的になるかもしれない。なお，開催校は東工大以外でも候補があれば考慮する旨報告された。

(学会賞)

- ・コンスタントに候補があがるようにしたい(現状では、候補推薦を使命とする推薦委員会が機能せず、選考委員会が推薦委員会を兼ねている)。
- ・「該当なし」はありうるものとする。
- ・編集委員会から、選考委員会に推薦者を上げるのはよいが、論文賞以外の推薦は難しく、むしろ理事会マターであるとの意見が出され、検討の結果、推薦の役割分担は、以下のようになった。  
功績賞・業績賞：推薦委員会  
論文賞：選考委員会、論文賞 B は編集委員会からの推薦者を候補者とする。  
奨励賞：フォーラム主査，一般会員，推薦委員会

(男女参画運営委員会について)

- ・内藤総務理事より、従来から男女参画運営委員会メンバーにはなっているが具体的に動いていないことが報告された。今後の本会の対応としては、あくまでも情報収集の意味で参画する、男女参画運営委員会に参加する液晶学会代表は、可能であれば 2007 年度に女性理事を選出し、その方をお願いする旨の提案がなされ、承認された。この方針で 2007 年度役員選定を行うこととなった。

2-2 財務委員会(平岡理事，資料 06-01-2)

(活動報告)

- ・資料に基づき、2006 年度活動報告が行われた。

(会計報告について)

- ・昨年は契約書上にある年 4 回の会計報告が 2 回しか行われていない。ただし、4 回も必要かどうか継続的検討が必要と思われる。本年は契約上に銘記されていることもあり、行うこととしている。

(2005 年度会計監査予定)

- ・2005 年度会計監査は本年 3 月中に行い、4 月理事会では決算報告ができるように予定している。本年は幹事が 2 名とも交代しているため、前幹事も引継ぎの意味も含めて立ち会っていただく予定であることも併せて報告された。

2-3 編集委員会(山本理事，資料 06-01-3)

(活動報告)

- ・資料に基づき、2006 年度活動報告が行われた。

(総会議事録掲載について)

- ・2005 年第 5 回理事会で、鳥海前副会長から提案のあった総会議事録の会誌掲載は復活させることにしている旨、報告された。

(印刷費見直しについて)

- ・会誌印刷費を下げるために、学会記事をホームページに移行したが、やはり会誌に学会記事を掲載しないと不都合が多く、液討開催案内、総会議事録などの掲載を復活させることに戻っている。全体費用の見直し、印刷所の変更なども視野に入れる必要が事務局から提案され、検討していくこととなった。

2-4 情報委員会(伊達理事，資料 06-01-4)

(活動報告)

- ・資料に基づき、2006 年度活動報告が行われた。

(学会役員のリスト掲載)

・他学会同様、役員のリストをホームページで公開する旨提案され、承認された。

(情報委員の推薦)

・情報委員 8 名が決定され、理事会が推薦、承認された。

#### 2-5 行事委員会 (高橋理事, 資料 06-01-5)

(2006 年度サマースクール準備報告)

・今年度サマースクールは、昨年好評であったことを継続し、7 月に熱海での開催を計画している旨、報告された。

(2007 年サマースクール担当について)

・今年度サマースクールの世話人は能勢理事が適任であるが、今年度討論会実行委員を兼ねていることもあり負担が大きくなるのが懸念されるとの意見が出されたが、引継ぎの意味も含めて能勢理事にお願いすることとなった。

(賛助会員の参加者の扱いについて)

・現在、規定では賛助企業からの会員価格での参加できる人数は 5 名以内となっているが、5 名以上来場された場合の対応に苦慮することがしばしばある。範囲を広げるなどのことはできないか高橋理事から問いかけがあった。液晶学会は事業所単位で賛助会員となっているので基本的には規定どおり、事業所で 5 名以内とし変更はしない。それ以前に、事業所別の把握をしていなかったこともあるので再調査することとした。さらに本件は告知が徹底していないので、参加案内に詳細を記載することとした。

・サマースクール開催告知を学会誌に掲載 (4 月号, 3 月 20 日締切り) の希望が出され、了承された。

#### 2-6 会員委員会 (西川理事, 資料 06-01-6)

(住所不明者の扱い)

・メールで連絡してみることにした。その後、リストを回覧し、理事個々人で知人等が含まれていないかを確認し、個別に再打診することとした。

・会費未納 2 年で自動的に退会扱いしてはどうかとの意見が出されたが、現状で自動的に退会処理してしまうと会員数が 1000 人を切ってしまうので、慎重に行うべきであるとの反対意見も出され、継続審議事項とした。

・学会としても住所不明者をなくすべく、MMB で本人任せにするのではなく、会誌発送台紙の裏面に住所変更フォーマットを入れるなどの対応をすることとした。

(会員になるメリット, 途中入会者への告知など)

・途中入会者への対応 (会誌追加発送等), 学生会員の会費請求 (卒業年度は正会員扱いとするか, 学生会員として扱うか) の規約がない。規約を制定してホームページで公開する必要があるとの意見が出されたが、継続審議事項とした。

#### 2-6 研究委員会 (竹内理事, 資料 06-01-7)

(活動報告)

・資料に基づき、2005 年度活動報告および収支報告、2006 年度活動予定報告が行われた。

(旅費に関して)

- ・旅費に関しては規約がなく、各フォーラムで額に差がある。全体として現在のシズマネーの範囲で賄うのは、現実問題として難しい。会が終了しなければ黒字になるかどうかの保障もないので黒字になることを見越して旅費支出はできない。以上の理由から、シズマネーの上限変更、また資金追加など幅を持たせてほしい旨の提案がなされたが、継続審議事項となった。

#### 2-6 2006 年液晶討論会実行委員会（能勢理事，資料 06-01-8）

（実行委員会進捗状況報告）

- ・第 1 回実行委員会の議事録に基づき、進捗状況が報告された。

（参加費徴収方法）

- ・本年は会員数増加を図るため、当日受付の非会員には参加費に年会費を含める価格設定とし、年会費分も含めた参加費収入は大会側の収入として計上したいとの要望が出された。しかし、年会費収入を大会収入とすることに反対意見が出、検討の結果、例年どおり討論会当日に徴収した年会費は大会収入には含めないこととした。

（参加費徴収方法に対する意見）

- ・会費は学会本体に入るべきものなので、大会収入となるのはおかしい。最終的に学会本体に返還されるのであるが、管理が煩雑になることも懸念される。
- ・当日入会した方は 2006 年度扱いにするか、2007 年度扱いにするか。2007 年度扱いならばバックナンバー送付の必要はなくなる。
- ・会員入会特典を希望しても希望しなくても同じ参加費(18,000 円)はおかしい。参加費を 15,000 円とし、+3,000 円を加えて 18,000 円を支払えば会員として扱うということにしてはどうか。結果として 10,000 円は参加費、会費分 8,000 円は学会へ戻すことになる。
- ・参加費が確定しないことには会誌 4 月号に振込用紙を挟み込むことができない。締切りが近づいているので早急に結論を出す必要がある。
- ・会則改定も必要と思われる。会員委員会で想定される問題をリストアップ 2006 年度から改正は難しいので 2007 年度実施を目標とする。
- ・もとより当日に会員登録されるのは例年 10 名に満たない数であって、額にしては 80,000 円程度のことである。僅かな数のことで会則改正をするのはいかがなものか。慎重な議論を要する。
- ・参加費に年会費を組み込むことの目的がぼやける。実行委員会でガイドラインをもう一度策定すべき。

#### 4) その他

- ・次回理事会：2006 年 4 月 22 日（土）13:00～17:00 東工大イノベーションセンター

配布資料

資料 2006-01-1：2006 年度第 1 回日本液晶学会理事会資料（総務委員会）

資料 2006-01-2：2006 年度第 1 回日本液晶学会理事会資料（財務委員会）

資料 2006-01-3：2006 年度第 1 回日本液晶学会理事会資料（編集委員会）

資料 2006-01-4：2006 年度第 1 回日本液晶学会理事会資料（情報委員会）

資料 2006-01-5：2006 年度第 1 回日本液晶学会理事会資料（行事委員会）

資料 2006-01-6：2006 年度第 1 回日本液晶学会理事会資料（会員委員会）

資料 2006-01-7：2006 年度第 1 回日本液晶学会理事会資料（研究委員会）

資料 2006-01-8：2006 年度第 1 回日本液晶学会理事会資料（2006 年度第 1 回討論会実行委員会議事録）

## 日本液晶学会理事会アクションリスト

- 2003-1-09：行事開催地公募制再検討（行事，総務）
- 2003-4-01：講演会・討論会の開催方法の検討（行事、総務，財務）
- 2004-1-05：幽霊会員の防止対策・会費徴収方法・学生会員の管理・登録フォーマットの整備（会員委員会）
- 2004-2-02：出版事業に関するプロジェクトチーム編成，および調査（会長，副会長，総務，編集委員会）
- 2005-1-02：学会賞推薦基準の見直し（会長，表彰委員会委員長）
- 2005-1-03：役員数の見直し（会長，副会長，総務）
- 2005-2-03：サマースクール，フォーラムの口座開設と管理方法（会長，副会長，総務委員会，研究委員会）
- 2005-5-02：討論会の登壇資格，謝礼，参加費等（会長，副会長，総務，現地実行委員会）
- 2005-5-03：賛助会員へのサービス強化（会長，副会長，総務，会員，編集委員会）
- 2005-5-04：財務理事の管理口座の継続性（会長，副会長，財務委員会）
- 2006-1-01：協賛国際会議のシーズマネー拋出（会長，副会長，財務委員会，総務委員会）
- 2006-1-02：男女参画運営委員の選出（会長，副会長，役員選考委員会）
- 2006-1-03：液晶学会設立 10 周年記念出版事業企画（会長，副会長，編集委員会，情報委員会）
- 2006-1-04：総会議事録の会誌掲載（編集委員会）
- 2006-1-05：印刷費見直し（会長，副会長，編集委員会，財務委員会，事務局）
- 2006-1-06：住所不明者のメール調査（会員委員会，事務局）
- 2006-1-07：年度途中入会者等の規約案作成（会員委員会，事務局）
- 2006-1-08：シーズマネー追加資金送金（会長，副会長，財務委員会，研究委員会）

以 上